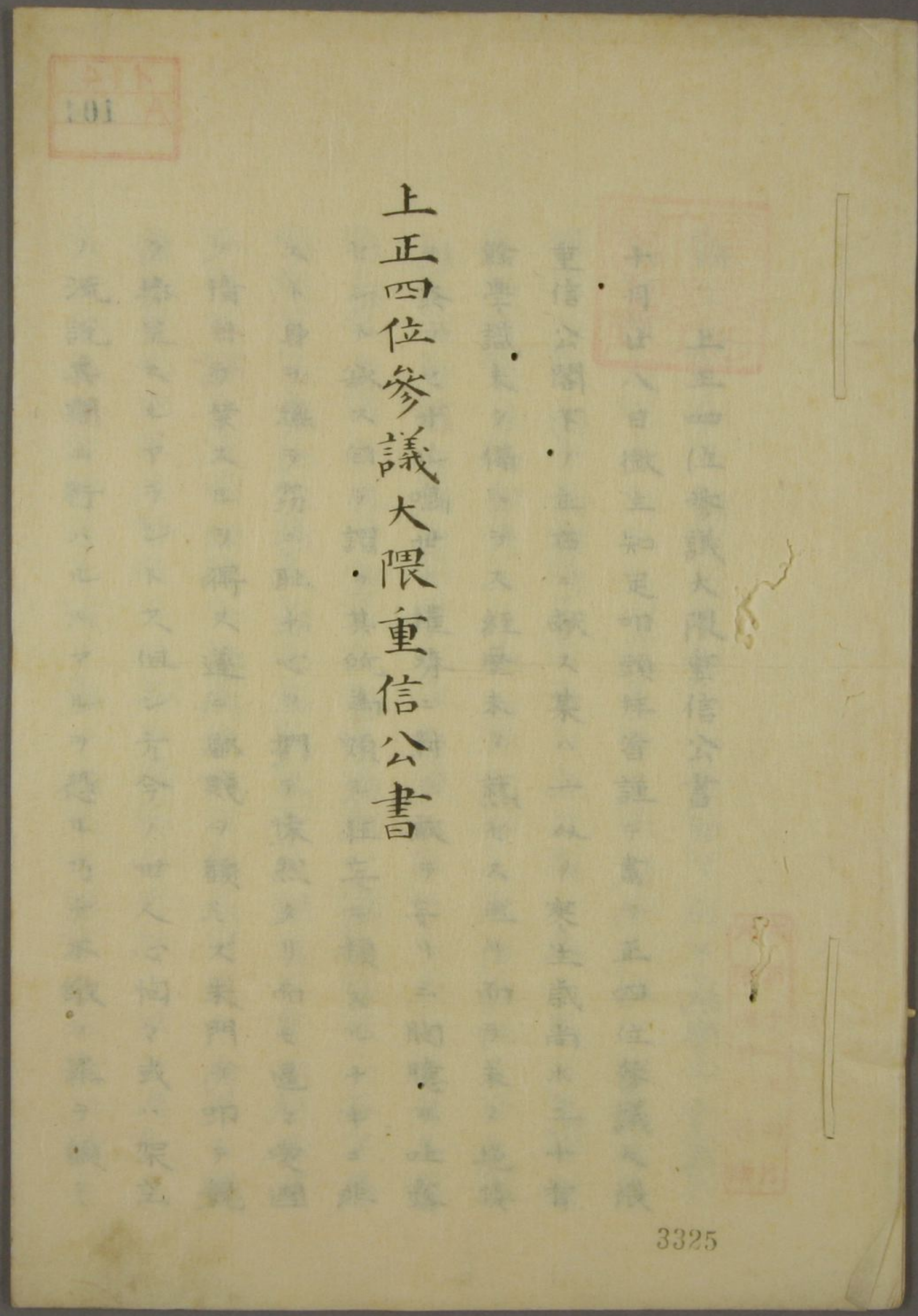
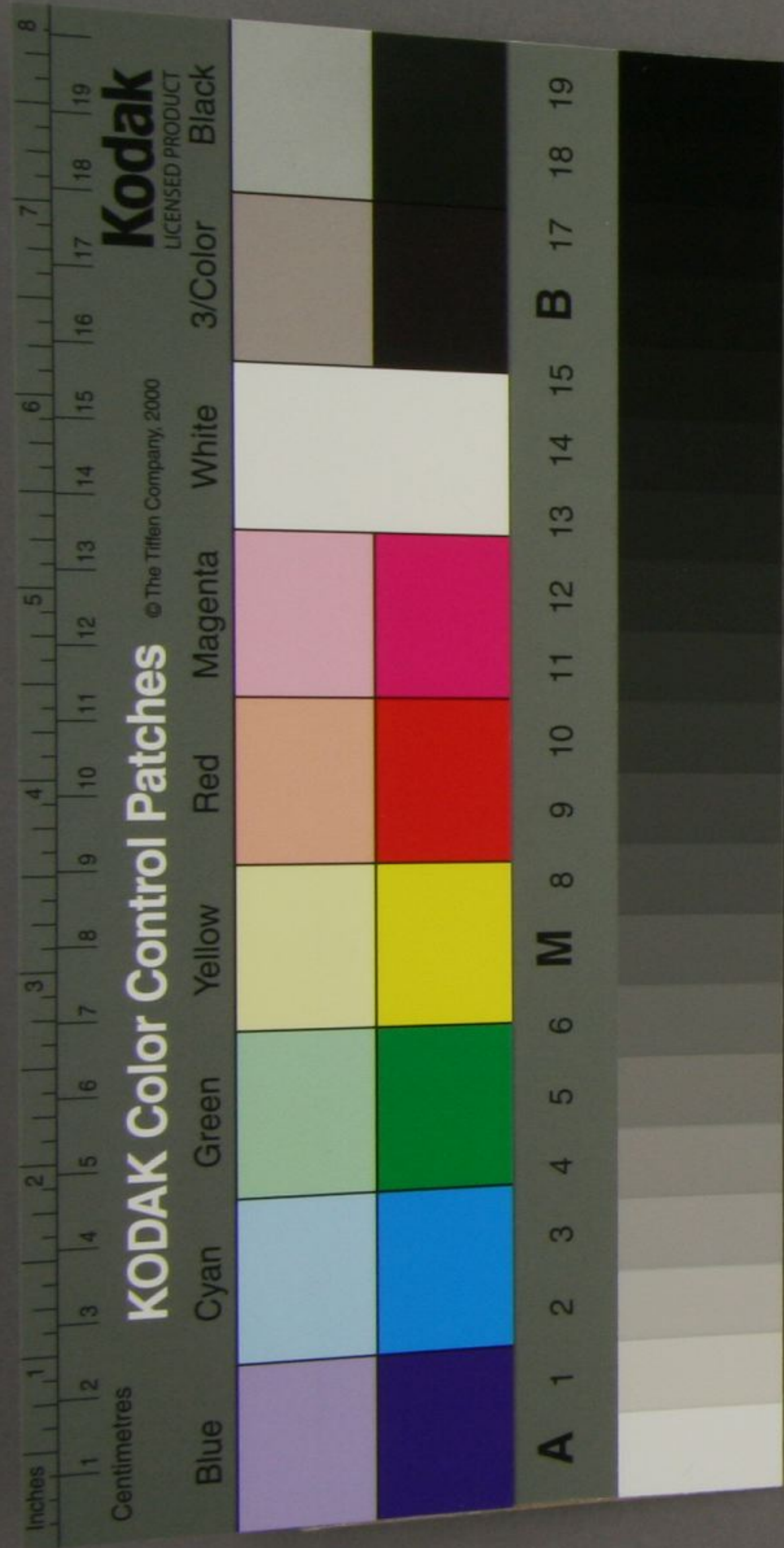




上正四位参議大隈重信公書



十月廿八日微生知足叩頭并首謹テ書ヲ正四位参議大隈

大正十一年四月
大隈侯爵寄贈

重信公閣下ノ左右ニ献ス某ハ一ハノ寒生歳尚ホ二十有
餘學識未タ備ハラス經歷未タ就セス然リ而テ未タ挹接
シ終フセザル鳴世ノ權勢ニ對シ敢テ妄リニ胸臆ヲ吐露
セント欲ス自ラ謂フ其所為頗ル狂妄ニ類スルナキニ非
スト身ヲ撫テ竊ニ耻チ心ヲ捫テ悚然タリ而モ區々愛國
ノ情自ラ禁スルヲ得ス遂ニ鄙賤ヲ顧ミズ朱門ヲ叩テ親
ク捧呈スルアラントス但シ方今ノ世人心恟々或ハ架空
ノ流説其間ニ行ハルハアルヲ恐ル乃チ不敬ノ罪ヲ顧ミ

ズ之ヲ郵傳ニ付シテ以テ之ヲ膝下ニ呈ス閣下請フ之ヲ
萬恕セヨ

伏シテ惟ミルニ松栢ハ霜凋セサルヲ以テ操ヲ萬木ニ繼
マ、ニシ貫天ノ忠ハ能ク社稷安危國家存亡ノ際ニ立
シ邪ヲ容レス茲ヲ遇サス奮テ艱難ノ衝ニ當リ一世ノ禍
乱ヲ平定ス其誠忠ノ感スル所鬼神ヲシテ泣カシムルモ
ノアリ昔者三國鼎立ノ時益州羈縻シテ蜀祚將サニ危カ
ラントス獨リ諸葛亮思ヲ内ニ焦シ身ヲ外ニ苦メ遂ニ事
成ラズシテ死スルト虽モ其貫天ノ誠忠ハ信ニ霜後ノ松
栢ニ愧デズト謂フヘシ矣今ヤ我國ノ如キ紙幣ノ下落ハ

幾ント其窮極ニ達シ普天率土到ル所トシテ窘厄ヲ蒙ラ
ザル無ク加フルニ人心疑惑波ニ議シ此ニ談シ政府信ヲ
國民ニ失フ蓋シ此時ヨリ甚シキハ無シ是レ豈ニ所謂止
益州羈縻ノ秋ニ非ズヤ此ノ時ニ當リ亮ノ誠忠ヲ以テ期
ス可キモノハ獨リ閣下ヲ措テ將タ誰ニカ求メシ亮力出
師ノ表ヲ讀ムニ曰ク宮中府中俱為一體陟罰臧否不宜異
同若有作姦犯科及為忠善者宜付有司論其刑賞以昭陛下
平明之治不宜偏私使內外異法也ト亮ヤ將サニ三軍ヲ獎
率シテ此中原ヲ靜定シ凶姦ヲ攘除シテ以テ恢復漢室ヲ
復セルトス常情ヨリ之ヲ見レバ豈ニ刑賞ノ政典ヲ顧ミ

ルニ違アラレヤ然リ而テ特ニ此ヲ以テ言ヲ為ス者ハ蓋
シ國家安危ノ機宗社存亡ノ決ハ塞外強梁ノ寇ニ在ラズ
シテ廟堂ノ賞罰平明ナラズ内外法ヲ異ニスルニ在ルヲ
知レバナリ夫レ然リ國家自ラ刑典ヲ存スルアリ之ヲ施
用スルニ當リ若シ内外左右其寛猛ヲ殊ニシ下ニ行レテ
上ニ及ボサバ如キ丁アレバ何ゾ天下ノ危懼憤怨ヲ畜
フノ深キヲ怪マンヤ

抑モ我國ノ現象ヲシテ斯ク困迫ヲ極メシメシモノハ單
ニ財政ノ困難ニシテ是レ因スル乎將タ人心ノ疑惑之ヲ
導キシニ由ル乎十目ノ視ル所十指ヲ示ス所誰カ之ヲ人

心ノ疑惑ニ非ストスルモノアラシヤ蓋シ三五年來政府
ノ行事世人ヲシテ危惑ヲ來サシメシモノ一ニシテ是ラ
ズト虽モ夫ノ昨年ニ發シタル藤田組贋札ノ疑獄ヲ曖昧
糺糊ノ中ニ埋没シテ敢テ之ヲ究紀セサルカ如キハ眞ニ
疑憤ヲ世人ニ來シ其影響ヲ財政ニ與ヘタルノ最大ナル
モノニシテ今之ヲ明言セスト虽モ少ク省察ヲ加フル寸
ハ閣下方寸ノ中既ニ自ラ悟ル所アラシ苟モ悟ル所アラ
バ何ヲ速ニ世人ノ疑憤ヲ解ク方ヲ求メ以テ目下ノ急
迫ヲ緩ニセザル若シ之ヲ知ルモ手ヲ下スラ欲セズト
セバ是ハ所謂醉ヲ惡テ酒ヲ強ルノ類ナリ天下何ノ日

カ安スルヲ得ンヤ某嘗テ昨年十二月二十五日安藤中警
視ヨリ司法卿ヘノ伺書ヲ見ルニ談獄ノ累犯ハ現ニ在廷
ノ重臣ニ繫ルモノ、如シ果シテ然ラハ真ニ國家ノ大變
ナリ 今上天皇ト明治政府ノ失態ヲ後世ニ表白スルモ
ノナリ苟モ職ニ要路ニ在ルモノハ勿論全國臣民豈ニ一
日モ忽視ス可キノ事ナラシヤ然レモ既往ハ追フ可ラス
今ヤ更ニ國家ノ刑典ヲ正シ罰ス可キハ之ヲ罰シ罪ス可
キハ之ヲ罪シ以テ内外法ヲ異ニスルノ偏私ナキヲ示ス
ノ時再來セリト云ベシ閣下斷然之カ裁決ヲ公明ニシ世
人ヲシテ其危惑ヲ渙然タラシムルアラバ獨リ現今ノ形

勢ヲ挽回スルニ足ルノミナラス天下後世ヲシテ我朝庭
ニ 皇上ノ聖德ヲ輔益スル諸葛亮其人アルヲ知ラシメ
併セテ全國ノ人心ヲ提起スルモノ將サニ少ナラガラ
ントス豈ニ躊躇ス可キノ時ナラシヤ豈ニ危懼シテ為ス
可ラザルノ地位ナランヤ 然リトモ此事件ニ関シテ公明ノ裁決ヲ下シ以テ世人
ニ満足ヲ與フルモノハ固ヨリ司法卿ノ責任タリ某不肖
ナリト虽モ敢テ之ヲ以テ閣下ニ望ムニ非ス但某閣下ヲ
信ズルノ厚キ是ヲ以テ閣下ニ誠忠ニ訴ヘ其注意ヲ喚起
セシト欲スルノミ決シテ閣下ノ職務上ニ向テ之ヲ云ハ

スルニ非ザルナリ故ニ閣下若シ是我職任ノ外ナリ我知
ル所ニ非ザルナリト云ハバ某復タ何ヲカ云レ唯昊天ヲ
仰テ號泣スル外ナキノミ然レモ閣下試ニ思ヘ昨年此件
ノ發スルヤ閣下實ニ大蔵ノ卿タリ今ヤ亦上席ノ參議ニ
シテ會計部ノ擔當タリ直接ニ之ヲ言ヘハ素ヨリ相關知
セザルガ如シト虽モ間接ニ於テハ豈ニ的ニ其責無シ
ト云可シヤ況ンヤ今日我國ノ司法權ハ未タ行政權ノ牽
制ヲ免レサルノ狀態ナキ能ハサルヲヤ閣下若シ已レ奸
惡ノ籠絡中ニ在ルヲ知ルモ亦更ニ怙然為ス所ナキガ如
キ丁アラシカ則チ縱令當世ハ欺ク可キモ後世ヲ如何セ

ン閣下果シテ亮カ心ヲ以テ心ト為シ皇ノ赤子三千余萬
ノ生命ヲ保全シ皇ノ邦域五畿七道ヲ完護シ以テ霜後松
栢ノ芳名ヲ後世ニ遺サシムヲ欲セバ宜ク身ヲ挺テ危難
ノ衝ニ當リ法ヲ明ニシ刑ヲ正フシテ以テ禍乱ノ源ヲ窒
カズンバアル可ラサルナリ古ヨリ奸人ノ志ヲ朝廷ニ得
ント欲スルヤ必ズ其私黨ヲ内外ニ樹立シ相表裏シテ以
テ君主ノ聰明ヲ壅蔽シ陽ハニ忠節ヲ裝フテ以テ其寵任
ヲ鞏フシ陰カニ私惠ヲ賣リテ以テ其信憑ヲ博セザルハ
ナシ今堂々タル朝廷ノ大臣ニシテ紙幣質造ノ大禁ヲ犯
シ傲然トシテ懼ル所ナキガ如キ蓋シ亦此術ヲ用フル

ニ非サルヲ得ンヤ苟モ之レ有ニ乎速ニ此等姦慝ノ頭ヲ
切斷シテ以テ天下億兆ニ謝シ以テ内外ノ積怒ヲ洩シ以
テ平明ノ治ヲ示スニアラスンバ外人ノ暴慢何ヲ以テ乎
禁セシ論者ノ罷議何ヲ以テ乎止マシ志士ノ義氣何ヲ以
テ乎振作セン民人感戴ノ誠志何ヲ以テ乎發揚セン禍難
蕩平ノ日未タ容易ニ知ル可ラザルナリ然リト虽モ百金
ノ家僮奴ヲ養フアリ會マ其家政ヲ害スルアルモ未タ遽
カニ之ヲ去ルニ忍ビズ況ンヤ其人顯職ニ居ル久ク乞哀
ノ歎情漸ク就スルニ於テヤ一朝ニシテ其職任ヲ褫ヒ
以テ之ヲ嚴刑ニ處スルガ如キハ或ハ少ク忍ビザル情ナ

キニ非スト虽モ私情ハ輕シ國法ハ重シ國ニ禍シ民ヲ侮
ルノ罪ハ大ニ巧言令色ノ愛ハ小ナリ閣下宜シク大小輕
重ヲ商量シ私心ヲ割テ以テ公道ニ従ハスニバアル可ラ
サルナリ聞クカ如クンバ一時審案裁決ノ誠議盛ニ行ハ
レシト虽モ今ヤ又既ニ中止ニ屬セリト甚矣夫政府ガ斷
行ノ勇ニ乏シキ某モ日本ノ臣民ナリ若シ國家ノ禍福涯
ナキニ至ラバ亦禍乱ノ中ニ浮沈セザル可ラス豈ニ權勢
ヲ怵レ嫌忌ヲ懼レ泯々黙々口ヲ緘シ舌ヲ結テ以テ坐カ
ラ禍難ヲ来ルヲ待ツ可シヤ是レ某カ狂妄ノ誹リヲ顧ミ
ズシテ一言ノ台職ヲ煩ス所以ナリ希クハ某ガ區々々衷

情ヲ察シ幸ニ乙夜ノ電覽ヲ密ヒレヨリ而テ後々燒テ之
ヲ捨ヨ或ハ鳥雀ノ口ニ罹ルヲ恐ルナリ尊威ヲ冒瀆シテ
激切懇歎ノ至ニ任ヘズ某頓首

本郷區駒込十駄木町十三番地寄留

長崎縣小城市士族

明治十三年十月廿八日 年田知足



重々後重山山毛附キルヲ公直ニ對シテ大ニ謝
上ノ書ハ大ニ改言今ヨリ愛ハ不測ニ隨テ重々大ニ謝
キニ非ズ是ヲ謝辭ハ雖モ固シク重々謝辭ノ月知

情... 已... 定... 後... 上
一... 馬... 經... 不... 可...
微... 至... 大... 其... 功...

... 之... 本... 之... 本... 之...
... 之... 本... 之... 本... 之...
... 之... 本... 之... 本... 之...

